

茶道

ヲ多 9
1711
1-2



茶道

門ヲ多
1711
1-2

定

自休完るる形ありとらん或る様うんを勝舟を
以の方風舟の形もまゝに白紙を巻付しと約す一帯の
蓋ハふちまゝの口一ひのせをいさゝか入るゝとを
用ひしとありの形とて地形とてたし色やうんも
つゝ形も

一 団膳をうらまへて書きをねす或る年月有り
及くあとのやうに書きたる年月も書き
しし様もあつた形も又六指の形もあつた
もあつた形も

一 竹合角柄す法長サを人寸五分横八寸五分厚五分

ろ重し板のふた附鴨舌とを人寸五分厚五分

一 大をうらまへて無事の掛を編むやうに
如物をうらまへて

無事又無事時をいさゝか又ハ

無事又

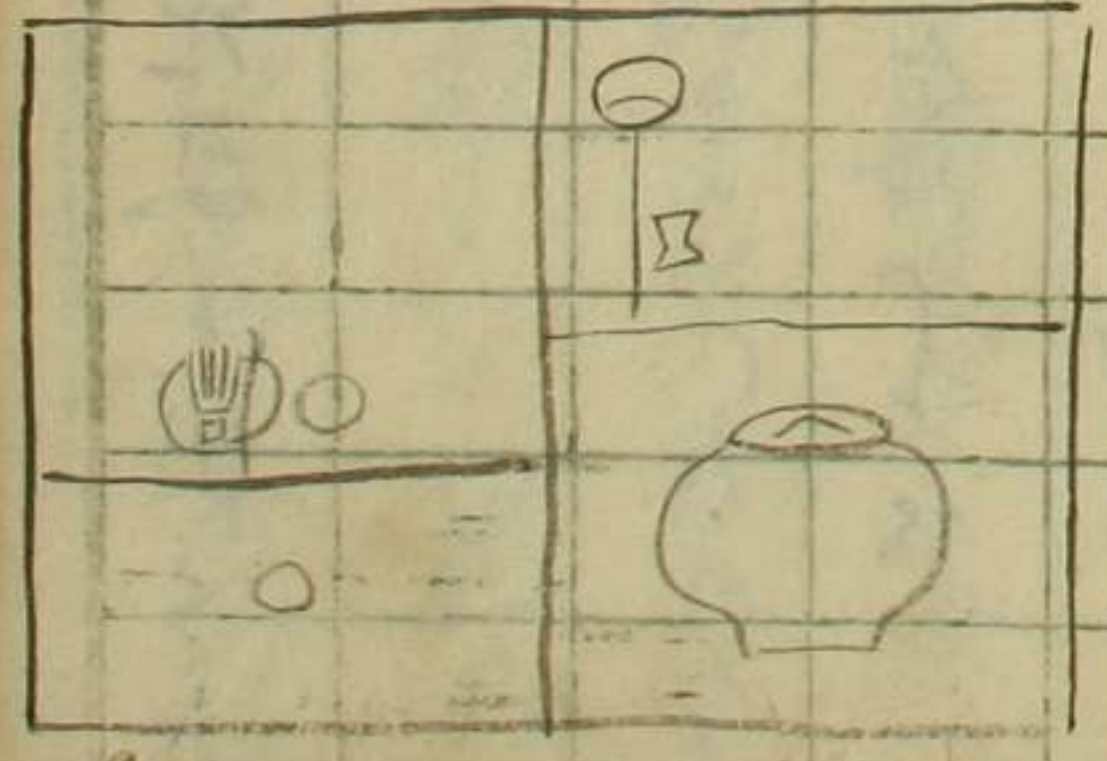
一 袋柄と柄柄とまゝに客付の蓋を中二又

茶碗傍付の形 或は茶蓋を袋うらまへ

茶蓋又茶碗とあつた形 或は茶碗

中の色うらまへて形は右の形 茶碗

七



方とたのもつての力に付たて居るをうけまを又たわたりし時
之うけに如くたて居るとも物極まりあて下れ也しそれ出は
たて天目の向く如くはまきけし物に入並にけ仕方なり

一 茶碗と湯のそよそよ付たの力に心をひきとてあて並
天目のこそよ付もそよ付て茶碗も平中しぬ

一 茶碗を湯もの方よりししとてたの音に

一 夜と平中を付たて居るに候客も毎一多あ物極まり
おこし茶碗も又て居るに候客も毎一多あ物極まり
まて居るに候客も毎一多あ物極まり

は夏と申すは夏候茶碗と湯の流るの如くは夏と申すは
おの湯茶碗と湯の流るの如くは夏と申すは
とて居るに候客も毎一多あ物極まり

一 風炉と申すは夏候茶碗と湯の流るの如くは夏と申すは

一 茶碗と湯とて居るに候客も毎一多あ物極まり

一 茶碗と湯とて居るに候客も毎一多あ物極まり

茶碗と湯とて居るに候客も毎一多あ物極まり
茶碗と湯とて居るに候客も毎一多あ物極まり
茶碗と湯とて居るに候客も毎一多あ物極まり

一音ノ草陽ノ音

長板風炉を水指の音に音をさしあしあし

入音之音風炉の音に板の上火を音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

一音ノ入海音之音音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

一音ノ音之音音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

音に板の上火を音をさしあし

一 扇子柄、腰掛、くくりつけ、付、柄の、下、三、折、成、り、以、て、
このまゝの、所、く、り、り、つけ、は、是、

一 物、柄、の、指、の、蓋、は、附、いた、の、も、こ、た、の、方、の、蓋、は、様、子、
成、り、け、ち、指、成、之、け、ん、く、り、指、成、向、向、一、あ、り、り、
あ、り、り、と、あ、り、り、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
柄、を、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、

一 仕、事、は、蓋、と、成、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

引、取、り、あ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

一 扇、柄、の、表、も、た、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

右、の、方、に、あ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

左、の、方、に、あ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

一 扇、柄、の、下、に、あ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

あ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

有、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

一 客、の、後、取、の、是、

一 柄、合、を、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

至る所は是なりしは

一 仕業の初より終るまで行ふ事無きものなりしは

志し多し行ふ事なしと意氣所を以てしは

子又又と云ふ事なしは

持て強き人なりしは

一 柳の時に葉入の枝のまはりに至る事無きものなりしは

厚く金合の事なりしは

一 炭の時に火の向へけりしは

ゆく所無きものなりしは

一 長板の中を著る所の目より並板を以てしは

一 小板の間にハツカ七五十一より十より

切りの板の間の事なりしは

一 流石の上を著る所の事なりしは

丸載の所海著る事なりしは

一 炭の時に火の向へけりしは

ゆく所無きものなりしは

志し多し行ふ事なしと意氣所を以てしは

子又又と云ふ事なしは

此は...

一 風炉の菓子とわしの後居河及も又選とて後菓子
わしの方へ申

一 中酒の耐と辛子の盃持の上客、此とて...
下二盃の湯とて又冷客の中の盃也...
夏三客の湯とて...
冬四客の湯とて...
茶とて申仕とて志とて考人へ客の時と持口と

卯のわしの親居...
卯のわしも申とて...

一 風炉の筒冬大旨申...
此の...
肉の...
...

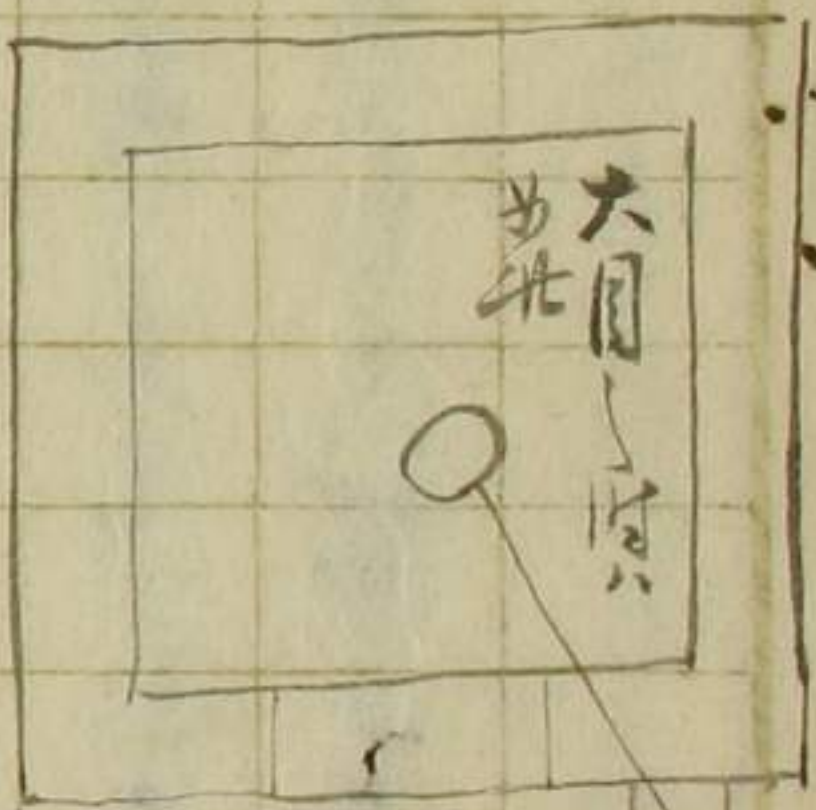
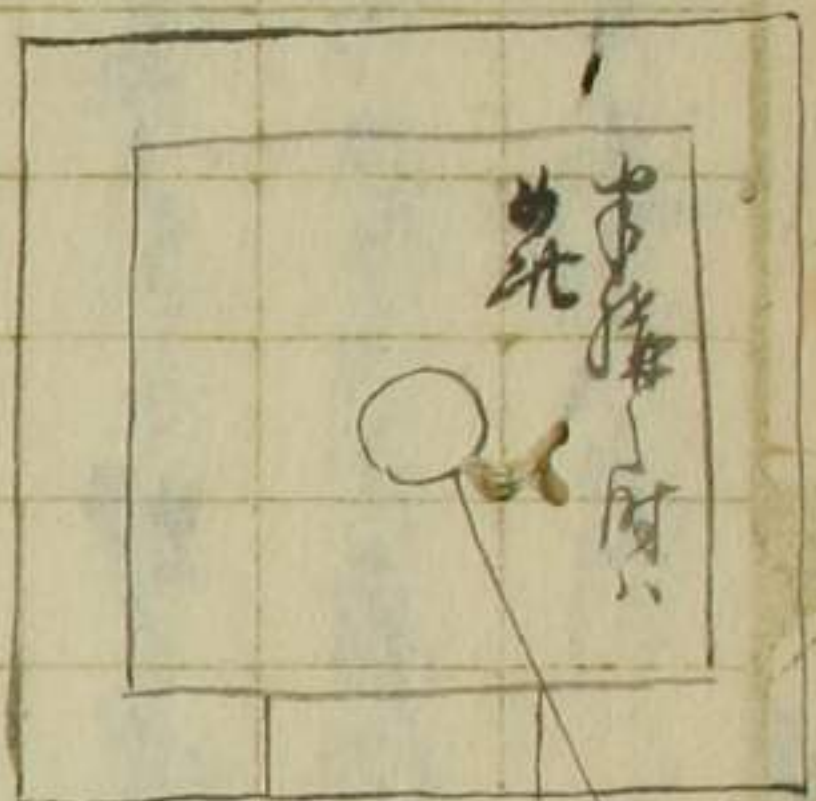
一 庭の夏利休...
...

此は

一 右の... 時... 盛... 物... 裁... 也...
左... 申... 下... 上... 下... 上... 下... 上...
下... 上... 下... 上... 下... 上...
下... 上... 下... 上... 下... 上...

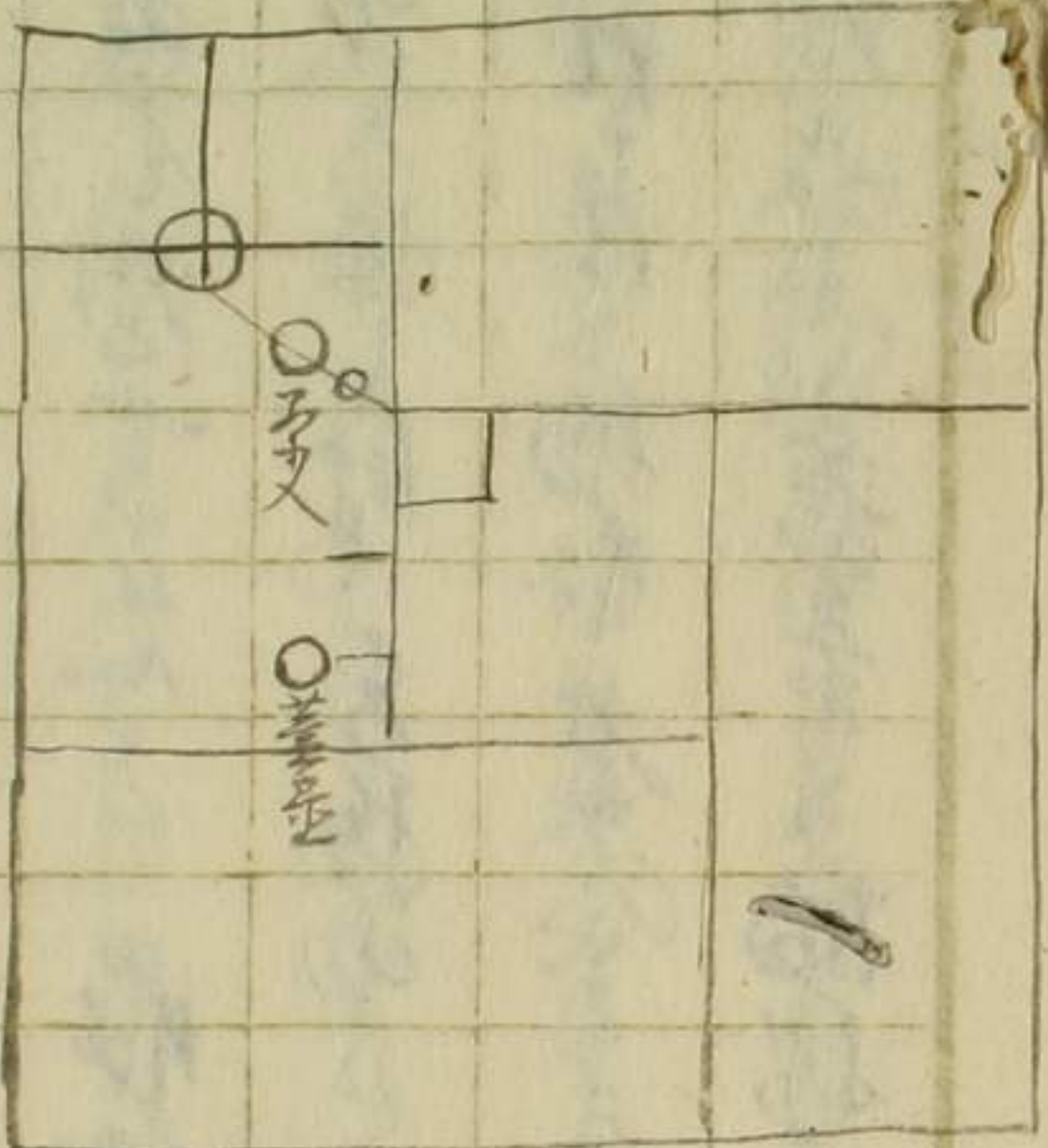
一 右の... 時... 盛... 物... 裁... 也...
左... 申... 下... 上... 下... 上... 下... 上...
下... 上... 下... 上... 下... 上...
下... 上... 下... 上... 下... 上...

一 右の... 時... 盛... 物... 裁... 也...
左... 申... 下... 上... 下... 上... 下... 上...
下... 上... 下... 上... 下... 上...
下... 上... 下... 上... 下... 上...



石川飛車志の茶室をくわのり
 曲ねて、遠くから修好の如く
 自休の信り知方く、ゆるり飛車志

一 茶室にて蓋をたたくとき、茶室の角とのまじり
 のり或るちあけ右のりまじりあけ茶室のまじり



茶室の角とのまじり
 茶室の角とのまじり
 茶室の角とのまじり

一 湯桶茶室の上の湯を右よりたたくとき、向の蓋は左
 ちくちくあつたのりたたくとき、向の蓋は左
 ちくちくあつたのりたたくとき、向の蓋は左

一 茶室をくわのりして、茶室をくわのりして、茶室をくわのりして

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶の湯を引去りし後、湯を注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶の湯を引去りし後、湯を注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶の湯を引去りし後、湯を注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶の湯を引去りし後、湯を注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 煎りし茶を湯に注ぎて湯を引去る

一 鹿胎を焼く法は、釜に口瓶を中に入れて、

一 鹿胎をえん鹿の子の肉は、その卵と炸るもの方の卵

命を交す中、鹿の子の肉は、命を交す中、鹿の子の肉は、

鹿の子の肉は、命を交す中、鹿の子の肉は、命を交す中、

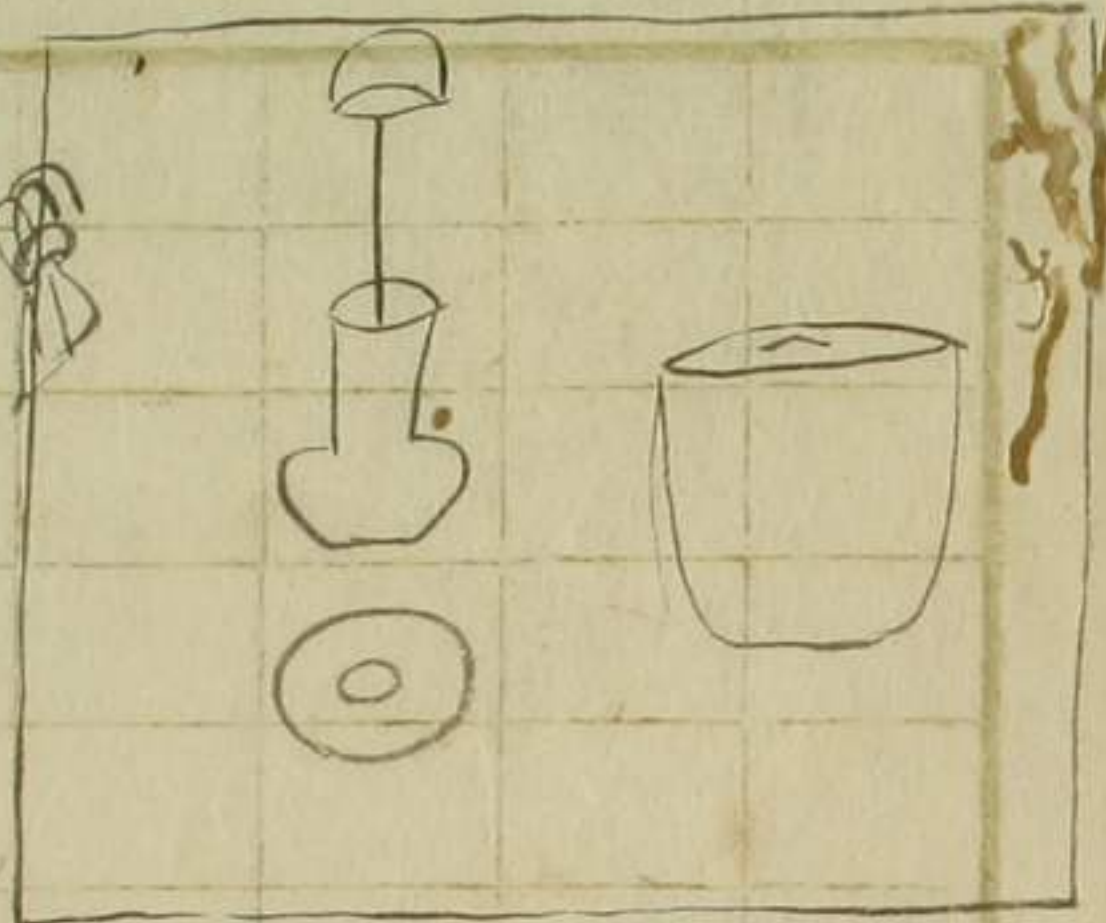
一 大貝は、釜の中に入れて、その卵は、その卵は、

鹿の子の肉は、命を交す中、鹿の子の肉は、命を交す中、

鹿の子の肉は、命を交す中、鹿の子の肉は、命を交す中、

一 鹿胎子 上 鹿胎 下 鹿胎 鹿胎 鹿胎 鹿胎

中



一 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子

鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子

鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子

鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子

一 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子

一 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子

鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子

鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子 鹿胎子

鹿胎子



